慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	学会報告 日本ジョルジュ・サンド学会 生誕二百年記念：ジョルジュ・サンド国際シンポジウム・日本二〇〇四
Sub Title	Rapport de la Société Japonaise des Études Sandiennes : le colloque international de George Sand au Japon 2004
Author	西尾, 治子(Nishio, Haruko)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2006
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. フランス語フランス文学 No.42 (2006. 3) ,p.137- 144
JaLC DOI	
Abstract	「日本ジョルジュ・サンド学会」（2004年に「ジョルジュ・サンド研究会」から現学会名に改称）のおおまかな歴史を辿ってみると、1986年、Christiane Sand女史を招いてサンドの展覧会および講演会を開催している（東京・西武美術館）。以降、二十一世紀に入ってからは、仏文学会開催時に、年2回の研究会を開くという地道なサンド研究を続けてきた。サンド生誕二百年記念の国際学会が世界各地で開催され始めた2002年頃から、学会員が積極的に海外の国際サンド学会に参加しあるいは発表をおこない、国際交流に貢献した。2002年のイタリア・ベローナ国際学会、アメリカ・ニューオーリンズ国際学会、2004年夏のフランス・スリズィ国際コロック、ブルボン宮で開催された「政治」を主題とするサンド国際シンポジウム、作家の故郷ノアンで開かれた仏政府の文化・コミュニケーション省主催によるサンド生誕二百年記念国家祝賀典、ラ・シャートルのコロックおよび記念行事などが例として挙げられる。本稿では、国際的にサンド研究の気運が高まる中で、東洋で初めて国際サンド・シンポジウムを開催した「日本ジョルジュ・サンド学会」の2003年から2005年の足跡を時系列的に追ってみたい。
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10030184-20060331-0137

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese

Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学会報告

日本ジョルジュ・サンド学会

生誕二百年記念
——ジョルジュ・サンド国際シンポジウム・日本 2004——

西　尾　治　子

「日本ジョルジュ・サンド学会」(2004 年に「ジョルジュ・サンド研究会」から現学会名に改称）のおおまかな歴史を辿ってみると、1986 年、Christiane Sand 女史を招いてサンドの展覧会および講演会を開催している(東京・西武美術館)。以降、二十一世紀に入ってからは、仏文学会開催時に、年 2 回の研究会を開くという地道なサンド研究を続けてきた。サンド生誕二百年記念の国際学会が世界各地で開催され始めた 2002 年頃から、学会員が積極的に海外の国際サンド学会に参加しあるいは発表をおこない、国際交流に貢献した。2002 年のイタリア・ベローナ国際学会、アメリカ・ニューオーリンズ国際学会、2004 年夏のフランス・スリズィ国際コロック、ブルボン宮で開催された「政治」を主題とするサンド国際シンポジウム、作家の故郷ノアンで開かれた仏政府の文化・コミュニケーション省主催によるサンド生誕二百年記念国家祝賀典、ラ・シャートルのコロックおよび記念行事などが例として挙げられる。本稿では、国際的にサンド研究の気運が高まる中で、東洋で初めて国際サンド・シンポジウムを開催した「日本ジョルジュ・サンド学会」の 2003 年から 2005 年の足跡を時系列的に追ってみたい。

—2003 年—

2003 年、ジョルジュ・サンド研究会は、翌年のサンド生誕二百年を記念し、『十九世紀フランス女性作家　ジョルジュ・サンドの世界』(第三書房、

主要会員8名による自費出版）を刊行した。恋多き田園小説作家というイメージの強いサンドが、バルザックに匹敵するほど多くの作品を残したことはあまり知られていない。実際には小説・短編小説・童話90作以上、戯曲約20作、このほか自伝的作品、文芸・芸術批評、新聞記事、2万通におよぶ書簡など、膨大な量の作品を生み出した作家であり、その作品は、バルザック、プルースト、ドストエフスキー、ハイネ、フロベール、アランなどに深い感動を与えた。本書の刊行の目的は、多岐にわたるテーマを孕む作品内部から作者を捉え直すことにより、日本の読者に新たなサンド像を提示することにあった。本書の構成と概要は以下の通りである。

『十九世紀フランス女性作家
　ジョルジュ・サンドの世界――生誕二百年記念出版』

序章　ジョルジュ・サンドの生涯と作品
第一部　女性作家のエクリチュールの戦略
　第一章　『アンディヤナ』の戦略――流行作家への道
　第二章　『レリヤ』改訂の意図を考える
第二部　芸術、そして社会へのまなざし
　第一章　ジョルジュ・サンドの小説における芸術家像
　第二章　田園小説四部作に見る、パリと地方と理想郷
　第三章　ジョルジュ・サンドの作品に見る演劇性
第三部　未来への夢――晩年のサンド
　第一章　『マドモワゼル・メルケム』に見る理想の女性像
　　――三十五年後のサンド流ユートピア
　第二章　ジョルジュ・サンドと犬
　　――『アンディヤナ』から『犬と聖なる花』まで
第四部　ジョルジュ・サンドの物語世界における「語り手」の意匠
　第一章　女性作者の内在的創造戦略と「語り」の手法
　　『アンディヤナ』――謎の「語り手」と「私」（je）
　第二章　多声的物語世界と「語り」のパラダイム
　　――『レリヤ』から『モープラ』へ
　第三章　『オラース』――「語り手」と歴史の記憶
参考文献　ジョルジュ・サンド年譜　索引

【著者まえがきより（抜粋）】

本書はフランス十九世紀文学を代表するジョルジュ・サンドの生誕二百年を記念して企画されたものである。（……）サンド生誕二百年にあたる二〇〇四年に向けて、わが国ではほとんど紹介されていない著作の翻訳出版や、絶版になっている翻訳本の再版を働きかけるとともに、私たちの手で最近の研究成果を多くの方に読んでいただける本として出したいと考えたからである。サンドに関するこういった試みは日本では初めてであり、試行錯誤の末やっとこのような形で陽の目を見ることとなった次第である。サンドはバルザックに匹敵するほど多作な作家であるが、（……）作品より人生のほうが面白い作家、男装をし、葉巻をくゆらせ、パリの街を闊歩し、多くの有名人と交際する飛んでる女サンド。彼女の紹介のされかたはいつもこんな風であり、詩人ミュッセや、ショパンを恋人とした恋多き女としての名ばかりが先行した。本書が再考のきっかけとなって新たなサンド像の発見となれば幸いである。

—2004 年—

2003 年に出版された『ジョルジュ・サンドの世界』は、国書刊行会の選定図書に指定され、刊行後間もなく重版された。また、この出版は欧米諸国のサンド研究学界にも大きな反響を呼び、アメリカやフランスのサンド学会のホームページや機関誌でも取り上げられた。この経験に基づき、学会は 2004 年、サンド生誕二百年記念事業「Cycle George Sand au Japon」を企画し、日本フランス語フランス文学会とフランス大使館の後援を得て、春季大会に M. Hecquet リール大学名誉教授の講演会を白百合大学にて、また秋に 2 つの国際シンポジウム（東京日仏学院、日仏会館—恵比寿、東京）のほか、B. Didier, F. Guyon, J.-L.Diaz 等の招聘教授陣による 7 つの講演を企画し、これを実行した（東京、京都、慶應、学習院、上智、関西学院の各大学および日仏女性研究学会、ユゴー研究会ほか数社の出版社の協賛も得た）。少し長くなるが、「Cycle George Sand au Japon」のあらましとプログラムを掲載させていただくと、次のようなものである。

[Cycle George Sand au Japon]
ジョルジュ・サンド生誕二百年記念日本国際シンポジウム 2004

＊春の章・第一部　日仏女性研究学会講演会
講演：19 世紀フランス女性作家――ジョルジュ・サンドの現代性
・「第三の性」の作家、ジョルジュ・サンド――西尾治子（慶應義塾大学講師）
・アンディアナという女性――石橋美恵子（筑紫女学園大学名誉教授）
日時：3 月 6 日（土）、場所：日仏会館（東京、恵比寿）
主催：日仏女性資料センター（日仏女性研究学会）
協賛：日本ジョルジュ・サンド研究会

＊春の章・第二部　白百合大学ミッシェル・エッケ講演会
テーマ：ジョルジュ・サンドの『わが生涯の記』――その時代と沈黙
講演者：Michèl Hecquet（リール大学名誉教授）
日時：5 月 30 日（日）、場所：白百合女子大学
主催：日本フランス語フランス文学会、日本ジョルジュ・サンド研究会
後援：フランス大使館

〈秋の章〉
テーマ：「ジョルジュ・サンドの二十、二十一世紀への遺産――芸術と政治」
主催：ジョルジュ・サンド生誕二百年国際シンポジウム 2004 大会実行委員会
共催：京都大学、慶應義塾大学、関西学院大学、上智大学、学習院大学、東京大学
協賛：日仏音楽友の会（AFJAM）、日仏女性研究学会
後援：日仏会館、東京日仏学院、在日フランス大使館、第三書房、駿河台出版社、いなほ書房、日本フランス語振興会、朝日出版社、藤原書店

＊秋の章・第一部　サンド国際シンポジウム 2004（東京日仏学院）
日時：10 月 16 日（土）、17 日（日）、場所：東京日仏学院（東京、飯田橋）
使用言語：フランス語（同時通訳付）
●10 月 16 日（土）サンド国際シンポジウム 1
13：00　開会の辞　東京日仏学院長 Jacques Soulillou
13：10 ～ 14：00　コンサート「ジョルジュ・サンドと音楽の友人――ショパン、リスト」
ショパン：チェロソナタ g-moll、リスト：ヴァイオリンとピアノのための二重奏曲、ショパンのマズルカ op.6–2
14：30 ～ 16：45　映画上映『青い旋律』（ジョルジュ・サンドの生涯）
17：30 ～ 17：30　討論会：ジョルジュ・サンドと芸術
Nicole Savy（パリ第三大学所属ジャック・ドゥーセ文学図書館担当官、

前オルセー美術館文化担当官)、Anne-Marie Baron（十九世紀映画論専門家、バルザック記念館副館長）

●10 月 17 日（日）サンド国際シンポジウム 2

13：00 ～ 14：00　コンサート「ジョルジュ・サンドと音楽の友人――ショパン、リスト」

ショパン：ピアノ三重奏曲 g-moll op.8、リスト：ヴァイオリンとピアノのための大二重奏曲、ショパン：ロッシーニの「シンデレラ」の主題による変奏曲 E-dur

14：30 ～ 16：45　映画上映『年下の人』

17：30 ～ 19：30　シンポジウム："ジョルジュ・サンド像――その過去と現在"

Françoise van Rossum-Guyon（アムステルダム大学名誉教授)、Nicole Savy、Bruno Viard（プロヴァンス大学教授)、持田明子（九州産業大学教授)、高岡尚子（一橋大学講師)、西尾治子（慶應義塾大学講師）

＊秋の章・第二部　サンド国際シンポジウム 2004（日仏会館）

日時：10 月 23 日（土)、24 日（日)、場所：日仏会館（東京、恵比寿）

使用言語：フランス語（同時通訳付・討論会）邦訳資料配付

●10 月 23 日（土）サンド国際シンポジウム 3

10：00　開会の辞　日仏会館館長 Françoise Sabban、フランス大使館文化担当官 Pierre Koest

A. 10：15 ～ 12：00〈司会：秋元千穂（慶應義塾大学講師)〉

・アンガージュマンとしての小説の技法――Françoise van Rossum Guyon

・ジョルジュ・サンド、19 世紀女性知識人――作品を通してみる創作技法――西尾治子

・『アンディアナ』におけるイギリス趣味と政治性――石橋美恵子

B. 13：00 ～ 15：30 〈司会：坂本千代（神戸大学教授)〉

・ジョルジュ・サンドと映像――Anne-Marie Baron

・ロマン主義時代の出版文化と『挿絵入りジョルジュ・サンド作品集』――平井知香子（関西外国語大学教授）

・ジョルジュ・サンド、芸術と偶然――ペンと絵筆――Nicole Savy

・『ローラ』における色彩と芸術家 ――高岡尚子

C. 15：45 ～ 17：45〈司会：高岡尚子〉

・ジョルジュ・サンドの作品に見られる "naif" の概念 ―― 渡辺響子（明治大学助教授）

・ジョルジュ・サンドの作品におけるモーツァルト――『わが生涯の記』『デゼルトの城』『ファヴィラ先生』――坂本千代

・ジョルジュ・サンドにおける女性芸術家小説——政治と美学——Béatrice Didier（エコル・ノルマル・スュペリエール教授）
・18:00 ～ 18:30　コンサート　〈司会:Margueritte France（AFJAM 会長）〉モーツァルト:「魔笛」より抜粋、ショパン：メロディ、ドップラー:「リギ山の思い出」（フルート、フレンチホルン）、モーツァルト:「ソナタ」（ホ短調）

● 10 月 24 日（日）サンド国際シンポジウム 4

D. 10：00 ～ 12：00　〈司会：西尾治子〉
・ピエール・ルルーの弟子サンドの考える諸世代の連鎖——『コンスエロ』と『わが生涯の記』から——Bruno Viard（プロヴァンス大学教授）
・ジョルジュ・サンド、政治に参加した女性——1848 年 2 月の日々——持田明子
・『黒い谷』における民衆像——稲田啓子（関西学院大学講師）

E. 14：00 ～ 16：00　〈司会：渡辺響子〉
・ジョルジュ・サンドにおけるクルチザンヌ像:イズィドラ——村田京子（大阪女子大学講師）
・ジョルジュ・サンドの『祖母の物語』における女性の問題——秋元千穂
・芸術と政治のあいだで『ある旅人の手紙』の時（1835–1837）——José Luis Diaz（パリ第七大学教授）

F. 16：30 ～ 18：00　コロックの総括と討論　〈司会：José Luis Diaz〉
パネリスト：Béatrice Didier、Françoise van Rossum Guyon、Nicole Savy、Bruno Viard、Anne-Marie Baron、西尾治子

——サンド国際シンポジウムに呼応し開催されたコロックおよび講演会——

○ 10 月 19 日　京都国際シンポジウム、場所：京都大学
“ジョルジュ・サンド、ヴィクトル・ユゴーの同時代人”
発表者：Nicole Savy、Anne-Marie Baron、Bruno Viard
司会：稲垣直樹（京都大学教授）、コメンテーター：坂本千代、平井知香子、吉田綾（大谷大学講師）

○ 10 月 21 日（木）講演、場所：学習院大学
講演者：José-Luis Diaz
司会：Thierry Maré（学習院大学教授）

○ 10 月 22 日（金）講演、場所：上智大学
講演者：José-Luis Diaz
テーマ：「バルザックをめぐって」
司会：澤田肇（上智大学教授）

○ 10 月 22 日（金）講演、場所：慶應義塾大学（「現代フランスと女性研究会」主催）
講演者：Béatrice Didier
テーマ：「19 世紀文学と女性芸術家像」
司会：橋本順一（慶應義塾大学教授）、コーディネーター：秋元千穂、高岡尚子、西尾治子
○ 10 月 25 日（月）講演、場所：東京大学
講演者：Béatrice Didier
テーマ：「19 世紀文学とオペラ芸術」
司会：石井洋二郎、鈴木啓二（東京大学教授）
○ 10 月 28 日（木）講演、場所：関西学院大学
講演者：Françoise van Rossum-Guyon
テーマ：「ジョルジュ・サンドの文学について」
司会：博多かおる（関西学院大学教授）、コーディネーター：村田京子
○ 11 月 5 日（金）講演、場所：慶應義塾大学（「現代フランスと女性研究会」主催）
講演者：Françoise van Rossum-Guyon
テーマ：「70 年代フランスにおける女性のエクリチュール・エレーヌ・シクスー」
司会 ：橋本順一、通訳・進行：西尾治子

――ジョルジュ・サンド国際シンポジウム 2004 大会実行委員会――
実行委員長：西尾治子、副委員長：高岡尚子、Patrick Rébollar
大会役員：秋元千穂、石橋美恵子、稲田啓子、宇多尚久、坂本千代、鈴木美登里、野母倫子、樋口仁枝、平井知香子、Margueritte France、星田宏司、村田京子、吉田綾、渡辺響子

日本の G・サンド研究史上初めて、発表者 15 名（仏人招聘者 6 名、日本人 10 名）という規模で開催された国際シンポジウム「ジョルジュ・サンド生誕二百年記念――ジョルジュ・サンドの二十、二十一世紀への遺産 ――芸術と政治」は、女性の学会員達の力により企画・運営されたという独自性をもつ点においても、仏文学領域における恐らく日本で初めての国際学会であった。

十九世紀にフランス文壇の大御所であったサンドの文学は、二十世紀後半の五十年以上もの間、本国においてさえ不当な評価に甘んじてきた。昨年の

Magazine littéraire に掲載されたサンド特集号は、サンドの創作がバルザック、フロベール、ゾラにとって先駆的な役割を果たしていたことを指摘している。現実社会の矛盾を冷静に分析し、作品中に人間の根源的な問題を提示するサンドは、単なる少女向けの田園小説作家ではない。サンドは二十一世紀の今日においても現代性をもつ文学・芸術・社会・哲学・政治・人間に関する注目すべき言説を作品や登場人物に可視化させ、私的書簡に残した。シンポジウムでは十九世紀フランスの時代の証人である作家サンドの再生と復活を目的とし、数多くの世に知られざる作品をテーマに沿って分析し論証した。フランスでは Béatrice Didier 編纂によるサンド全集復刻版 80 巻の刊行に着手し、その一部はすでに出版されている。パリ第七大学の José-Luis Diaz が立ち上げた超領域的国際サンド研究学会には日本の 4 名のサンド研究者の名前が選抜され登録されている。これらの事実が如実に示しているように、日本のサンド研究は現在世界から注目されているのみならず、大げさに言えば、サンド研究推進の梃子としての役割を期待されている。今後、日本ジョルジュ・サンド学会が海外の研究学会と有機的な連携をとりつつ、発展的かつ高度な国際的研究活動を展開していく上で、国際シンポジウムを日本で開催し得たことは大きな意義を持つことになるだろう。

——2005 年——

2005 年のサンド学会は、シンポジウムのアクト論文集刊行に向けて準備を進める一方、日本フランス語フランス文学会からの要請を受け、新潟大学においてサンドのワークショップを開催した。「二十一世紀にサンドを研究することの意味とは何か」というテーマのもとに、3 名のパネリストがそれぞれ「サンドの創作活動：現実からフィクションへの道程」、「サンドにおける芸術」、「ジョルジュ・サンドと第三の性：横断と変容・流動と継承」と題する発表をおこなった。サンド直筆の絵画や作者生誕の地 Nohant の館に創設されたマリオネット劇場、十九世紀の女性サン･シモン主義者の服装など、多くの貴重な資料が同時に映写された。フロアとパネリストとの間には白熱した質疑応答が交わされ、非常に内容の充実したワークショップとなった。